

駿河台大学 同窓会報

第 2 号

発行

駿河台大学同窓会
事務局

〒357-8555
埼玉県飯能市阿須698

☎(0429)72-1101

ホームページ
http://www.surugadai.ac.jp

春の光をあびて新たな旅立ち

平成13年度卒業式報告



ご卒業と心より
お祝い申し上げます

二〇〇二年三月二十五日
学校法人駿河台大学

- 理事長 山崎春之
理事 竹下守夫
理事 吉田邦久
理事 河上利雄
理事 山上和夫
理事 白倉利太
理事 梶木隆一
理事 山本孝
理事 山柏山
理事 山畔清
理事 山畔明

平成13年度卒業式が平成14年3月25日(月)に体育館にて挙行された。
平成13年度の卒業生は法学部421名、経済学部444名、文化情報学部241名、現代文化学部127名の合計1,233名であり、新たに同窓会メンバーとして加わるようになった。
本年度の答辞を述べたのは、文化情報学部文化情報学科白井啓太郎さん。来賓には日産自動車(株)「ニッサン・リレーションズ」担当部長島田京子氏をお迎えした。
卒業式終了後は、教室において卒業生全員に卒業証書が手渡された。その後は、場所を飯能プリンスホテルに移し、コンメンストパーティーが開催され、恩師や友人と在学時の思い出話に花が咲いている様子だった。また、別れを惜しむとともに再会を約束する様子も見受けられ、盛況のうち幕を閉じた。



平成13年度 総代・答辞・各賞受賞者一覧

- 総代
法学研究科
松本 将治(私立慶應義塾湘南藤沢高校出身)
経済学研究科
岡田 真一(私立駒込高校出身)
文化情報学研究科
新井 克明(私立明治学院東村山高校出身)
法学部法律学科
吉野 晋介(都立武蔵丘高校出身)
経済学部経済学科
大池 宏志(埼玉県立秩父高校出身)
経済学部経営情報学科
大島 宏幸(埼玉県立朝霞高校出身)
文化情報学部文化情報学科
早川 瞳(私立流通経済大学付属相模高校出身)
文化情報学部知識情報学科
小田部 家成(埼玉県立所沢北高校出身)
現代文化学部比較文化学科
長瀬 仁美(山形県立山形西高校出身)
答 辞
文化情報学部文化情報学科
白井 啓太郎(福岡県立筑紫高校出身)
優秀賞
法学部法律学科
成瀬 雅子(私立十文字高校出身)
経済学部経済学科
金井 亮介(群馬県立伊勢崎東高校出身)
経済学部経営情報学科
植松 慶子(都立井草高校出身)
文化情報学部文化情報学科
堀越 明(都立志村高校出身)
文化情報学部知識情報学科
木下 愛子(千葉県立木更津高校出身)
現代文化学部比較文化学科
松岡 美保(栃木県立佐野女子高校出身)
菩提樹賞
法学部法律学科
- 青木 由起子(私立埼玉高校出身)
朝倉 里美(都立田無高校出身)
伊藤 和弘(長野県立岡谷東高校出身)
大河原 博正(埼玉県立豊岡高校出身)
酒井 美智子(長野県立飯田風越高校出身)
田村 怜子(私立聖望学園高校出身)
中島 法子(私立星野女子高校出身)
仁木 藍子(埼玉県立岩槻高校出身)
三浦 心平(埼玉県立浦和高校出身)
宮下 純子(埼玉県立所沢北高校出身)
元川 健(岩手県立黒沢尻北高校出身)
経済学部経済学科
薄 祐一(兵庫県立兵庫工業高校出身)
小美濃 伸彦(都立光丘高校出身)
小林 昭明(埼玉県立久喜北陽高校出身)
関根 健仁(埼玉県立所沢西高校出身)
宮本 久美子(さいたま市立大宮西高校出身)
森屋 真由美(埼玉県立豊岡高校出身)
前田 理江(都立小金井北高校出身)
経済学部経営情報学科
朝田 明弘(私立駒込高校出身)
久保 真紀(埼玉県立狭山経済高校出身)
嶋本 麻里(都立昭和高校出身)
染谷 直子(私立白梅学園高校出身)
信澤 由香(私立高崎商科短期大学附属高校出身)
原田 万上(私立東京学館浦安高校出身)
山口 章吾(埼玉県立飯能高校出身)
文化情報学部文化情報学科
宇田川 砂智子(私立山陽学園高校出身)
林 武(私立小松原高校出身)
赵 斗平(中国海南省万宁中学(高校部) 出身)
文化情報学部知識情報学科
枝 直美(栃木県立真岡女子高校出身)
清野 愛(長野県立大町高校出身)
大島 範子(新潟県立高田北城高校出身)
現代文化学部比較文化学科
強瀬 匡(埼玉県立熊谷高校出身)
深瀬 大輔(都立志村高校出身)
林 敬子(千葉県立佐原高校出身)
特別賞
法学部法律学科
酒井 美智子(長野県立飯田風越高校出身)
田村 怜子(私立聖望学園高校出身)
経済学部経営情報学科
嶋本 麻里(都立昭和高校出身)
十文字 聡(福島県立白河高校出身)
文化情報学部知識情報学科
新井 洋和(群馬県立藤岡高校出身)
現代文化学部比較文化学科
海老名 美佳(群馬県立前橋女子高校出身)

退任教授からの

メッセージ



退職にあたり、感謝の詞を！

経済学部教授 瓜生浩朗



私は本学経済学部の創設以来12年間勤務して今年3月退職いたしますが、現在の心境を一事で云いますと、感謝と私なりの満足でいっぱいであり、さらにこれを持ちつけて余生を送りたいと思っております。

私が工学系の出身でその道を歩み、前の大学も工学系でした。

したがって、本学へのお話がありましたとき、社会科学系の学部での教育・研究および諸先生との対話交流等がうまくいくか不安な思いにかられて

退任に際して想つ

経済学部教授 斎藤祥男



大学院経済学研究所創設に際して迎えて戴いてから早や7年、私も本年3月末をもって定年退職する。光陰矢の如し、今更ながら歳月の速さに驚いている。

駿河台大学では、自然環境と調和した素敵な校舎・研究室、若さ溢れる学生達、人柄の良い教職員各位に接して、気持ち良く教育と研究に精励できた。お蔭様で数本の研究論文と著書も出版でき、古稀記念論文集の発行には格別の御賛同を得た。

本学の特色の一つは、ゼミ生全員が卒業論文を仕上げる点にある。修士論文はもとより、学部学

いしましたが、全く杞憂にすぎず私なりに満足な勤めをいたしました。

これも本学の愛情教育の精神が支援の根幹であり、さらに経済学部の諸先生には、教授会・科目会議および研究会等に於て、さらに法学部等の諸先生にも、委員会および入試関連の諸委員会等に於ても、公私を問わず隔意なく対話ご支援をいただきました。その間浅学非才浅慮のためご迷惑をおかけしたと存じますが、寛恕していただき誠に有難うございました。このような諸先生との交流等で社会科学等の知見を耳学問ながら教育・研究に総合化して私なりのささやかな成果を得られましたことは、私にとり望外の幸です。これもひとえに皆様方のひとかたならぬご指導の賜と感謝いたしております。

終りに、本学のますますのご発展と諸先生・職員の方々のご多幸を祈念いたしまして、退職の感謝の詞といたします。

生の卒業指導ではかなり高度の内容を要求したが、皆それぞれに苦戦しながらも頑張つて、有終の美を飾ってくれた。「やれば出来る」という経験は、きっと社会に出てからも力強いエネルギーとなると、卒業生達の将来に裨益することは間違いないと信じている。

評価の高い大学の創造は、多くの卒業生が広く実社会で活躍し、顕著な社会貢献をする人材の輩出により達成できる。その前提は在学生自らが勉学の本旨を自覚し、母校の評価を高める学問的研究を怠らないうことであり、彼らを指導する教職員の尽力も必要である。母校を愛する卒業生はもとより、在籍する教職員にとっても、更に勝れて誇れる大学を目指すこと、これこそ本学を退任するに当って念じて止まない私の想いである。

大学を去るにあたって

文化情報学部教授 手塚映男



かつて、飯能付近の山の植物を調べに通ったこともあって、人間川沿いに広がる奥武蔵の奥深い自然景観の奥深い自然景観の奥深い自然景観

分変わってきたが、以前から私の中にあつて離れなかつた。この自然景観を一望できる駿河台大学に、文化情報学部の創設時に赴任し、8年間勤めることができたことは本当に幸運であつたと深く感謝している。

この間、心に残ることも数多いが、最初に博物館実習を行ったときのもその一つである。平

駿河台大学を去るにあたって

文化情報学部教授 安澤秀一



1992年3月に文化情報学部設置準備委員を引き受け、1993年4月より設置申請業務に専念し、1994年4月、新

学部が発足した。さらに1999年4月に大学院文化情報学研究科が開設された。この間、山崎春之駿河台大学総長をはじめ、お一人お一人のお名前を挙げる紙数の余裕がないけれど、多数の関係者のご厚意を得たことは生涯忘れ得ない思い出となる。あらためて厚くお礼を申し述べさせていただきます。

さて、この駿河台大学で過ごした9年間の最後の年2001年6月に、長年の課題であった佐賀藩勘定所大目安享保10年1725、安政4年1857のデータベース化のための諸作業を完了させたことが、私にとつて、この10年間の研究作業として最も大きい収穫となつたといえよう。佐賀藩勘定所大目安100年分をフルテキストおよびエクセル形式、および分析のための基本データとそれに基づく各種長期時系列データの整備とグラフの作成という作業

成7年度に学芸員資格課程が設けられ、翌年度から博物館の現場で実習をすることになった。当初、専門科目のことなどもあつて実習が無事に行けるかどうか危惧があつた。しかし、実習の現場を訪ねてみると、博物館側の協力もあつたが、多くの学生が日頃の授業からは想像できないほど、のびのびと前向きな態度で実習を行つていた。実習日誌も豊かな表現力で書いてあつた。学生たちが潜在していた豊かな個性と能力を発見したように思えて嬉しかった。

私の学生の頃を思えば、駿河台大学は、学習環境、自然環境、全てが優れている。学生一人ひとりが、自己の能力に自信を持って発揮し、元気を出して将来の目標を目指して頑張ることを期待している。大学のキャンパスから奥武蔵の自然を追求することができなくなるのは少し心残りでもあるが、大学の一層の発展と、学生たちの活躍に陰ながら声援を送りたいと思つている。

であつた。フルテキストで576MBあり、これをA4判にプリントアウトすれば804頁となる。エクセル表形式で64MBあり、これをA4判にプリントアウトすれば772頁となる。分析のために加工した各種時系列データは約7MBとなり、合計で約20MBになる。この成果は社会経済史学会69回および70回大会において、報告することが出来た。

コンピュータに入力した情報データを紙に打ち出すということは、この作業の本来の目的ではない。史料のデジタル化という作業から、どのような教訓を得られるのか、ということが自らに課した課題なのであつた。そこからここ数年、私にとつての研究課題となつたメタデータとマークアップ言語が浮かび上がったのである。上記のテキストの他に、朱書きのある原本をデジタルカメラで撮影した画像350MBとあわせて、470MBのCDを作成し終えたのが昨年6月のことである。今後はCDに収めた各種データのマイクログラフ作業に取り組みたいとこそ、デジタル化への真の挑戦と考えている。

駿河台大学での多忙に紛れ、作業を中断せざるを得なかつたが、それでも1997年から夏の暑い盛りには、原本校舎のために佐賀藩立図書館に通えるようになった。そつた人力作業や校舎作業を通じて、勘定所大目安に記されていたセロ記号に気が付き、「徳川期の 記号使用例」日本歴史614号1999.07を発表できたことも有難いことであつた。

新会員を迎えて

母校

平成14年法学部卒

安達 純



三月に卒業を控え、私は、自分の母校を訪問した。特に目的があつたわけではなく、ほんとは「ちょっと寄つた」といつもりの訪問だつた。そもそも私の高校生活は、いたって普通で、学校にもずぼらに知っている人といつのは先生だけで、これといつた思い出などないと思つていた。ところが、訪れてみると、まさにそこは私にまつての「母校」だつた。

それをまず最初に感じたのは、職員室に入ったときのことだつた。テスト期間中ということもあり、ほとんどの先生方は机にすわつて作業をしていた。忙しそだなと思ひながらも、最初の知つての先生に自己紹介をした。すると、その先生は静岡の訛りで「知つてるよ」と言つた。正直、覚えてらつてゐることに驚いた。その後、職員室を周つて面識のある先生に挨拶をしたが、みんな覚えていて、ここが自分の母校であることを実感した。

また、その後職員室を出て、校内をぐるりと歩いた。放課後にもかかわらず生徒が残つてゐる教室も部活をやつてゐるグラウンドも、誰も居ない食堂もすべてが懐かしかつた。それらの場所には私のことを知つてゐる人はいないし、私自身の中からも忘れられていたが、そこは立派な思い出の場所だつた。これといつた思い出がなくなつても、そこには私の日常があつた。ますます、自分にとつての母校であるといつたことを感じた。

最後に図書館で三年生時の担任の先生と話をした。挨拶だけのつもりだつたが、二時間以上も話し込んでしまつた。その先生は私以上に私のことを覚えていて、普通だと思つてゐた自分の高校生活にも実は色々あつたことを思い出さることができた。また、今は連絡を取らなくなつてしまつた友人達の現状を知ることもできた。

今回母校を訪問したことによつて、私は忘れていた自分を少し思い出さることができた。そして、私にとつて四月からはもう一つ母校ができる。この駿河台大学だ。大学生活に關して、今はまだたくさん鮮明な思い出がある。それらは一つずつすべてが大切でかけがえないものだ。しかし、時がたつにつれ、社会の荒波にもまれ、今を生きる為努力をしよう。高校生活を、普通の三文字で片付けてしまつたように。だから、何年かしたら駿河台大学を訪れたい。そして、また忘れていた自分を思い出さることができたらいいと思つた。私の中で母校とはそんな心よりも三文字のような存在だ。

卒業生は今

卒業後10年目を迎えて

平成5年法学部卒

坂本 修



光陰矢の如し、私も卒業してから10年目を迎ようといつています。改めて自分といつたものを省みると、社会に出てから世間の波にもまれたり、洗われたりしたことも多分にあるはずですが、それでもなお駿河台大学で過ごした4年間といつたものがとても濃く今に反映してゐることに気づかれます。のんびり屋の私は飯能のキャンパスを取り巻く丘陵地帯の緑や入間川などの眺めが好きでしたが、現在はそんな自然豊かな飯能市と地続きである青梅や奥多摩の森林保全や林業振興に關する仕事に携わつてゐることに不思議な縁を感じます。部外者であるにもかかわらず、内田康夫先生のゼミによる三宅島入のフィールド調査に参加させていただいたことも楽しい思い出です。現在行われてゐる三宅島噴火災害の復旧を支えることも私の職場の仕事の一つとなつてゐます。勿論、こうして行政の職に就いたのは松澤浩一先生のご指導と同じ志を持つて集まつたゼミの仲間たちとの切磋琢磨があつたからです。

また、学業以外の思い出といへば、大貫秀明先生の演出の下、駿大コンテナーポリータンズ部後の駿大ダンスシアターの一員として全日本ダンスフェスティバルに参加したことは、きと生涯最初で最後の舞台経験といえるでしょう。学生時代の楽しい思い出がよい映画や舞台を観た後のようによみがえつてきたりするの、もしかしたら、この時、舞台のライトを浴びたせいでしょうか。

そして、忘れてはならないのは弓道部での活動です。秋池宏美先生には創部以来、顧問としてずっと二面倒を見ていただけています。私たちの在学中は、はつきり言つて弱小でありましたが、それでもやる気に満ちたとても素晴らしい仲間たちに囲まれ、けじめをもつて強む練習もそれ以外の時も爽やかな気分でもつた時間は、今の忙しい日々にあつてとても懐かしい思い出です。現在の弓道部は師範の指導の下、皆が力をつけ、とても頼もしい部に成長しました。歴代の部員によつてゆつくりながらも脈々と発展し続けていることはとても心強く、OBとしても元気づけられます。

長々と思ひ出話をしてみました。同窓の皆さんにとつても駿河台大学で過ごした有意義な時間は、きとかけがえない思い出であることでしょう。卒業して環境が変わると、忙しさなどに取られ仲間と集う機会もだんだんと減つてしまつて、がこの駿河台大学同窓会の活動を通して、再び皆さんの交友の輪が広がる契機になれば素晴らしいことだと思ひます。

大学事務局からのお知らせ

卒業後の証明書申請について

《証明書の種類と手数料》
卒業証明書 1通200円(英文証明書も同額)
成績証明書 1通200円(英文証明書も同額)

《申込方法》

窓口申込
教務課窓口にて、「証明書交付願用紙」を受け取り、必要事項を記入の上、証紙券売機(第2講義棟正面入口左手脇)で手数料分の証紙を購入し、添付した上で、窓口へ提出してください。(証紙の裏面はシールになっています。)

なお、証明書は即時交付いたします。

郵送申込

郵送申込の場合は、a 文書にて次の事項を明記し、b 発行手数料相当分の切手と、c 返信用の封筒に送付先を明記し、切手を貼付して、左記の宛先へ申し込んでください。申し込み時に手数料を納入していただくため、電話での申し込みはできません。返信用封筒の郵送料は左の表を目安にしてください。

なお、証明書の発送は、申し込み文書が本学に到着した日の翌日午後以降となります。

「申込書記載事項」

交付請求日、卒業学部・学科又は研究科、卒業年月、学籍番号、氏名(ふりがな)、生年月日、現住所・電話番号、証明書の種類・通数

「宛先」

〒357-8555

埼玉県飯能市阿須698番地

駿河台大学教務課 学部

(封筒に、「証明書申請書在中」と朱書きにて明記)

証明書枚数	封筒サイズ	返信用切手金額
1 ~ 3 枚	定形(長3)	80円
4 ~ 8 枚	定形(長3)	90円
9 ~ 10 枚	定形外(角2)	140円

長3封筒:23.5cm×12cm
角2封筒:33cm×24cm

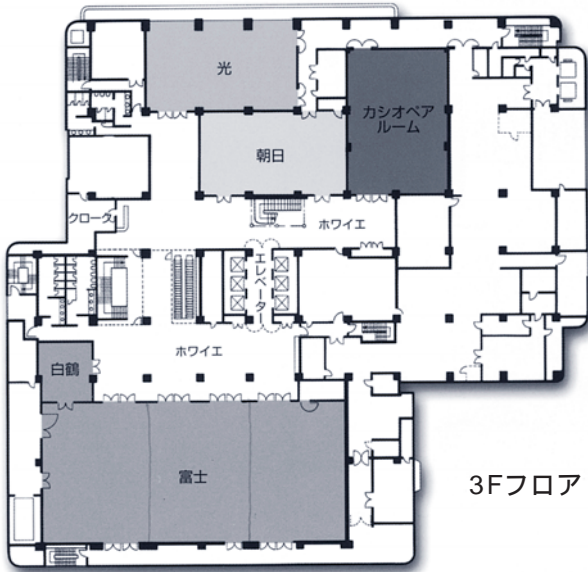
平成14年度同窓会総会開催

ホテルメトロポリタンにて

平成14年度の同窓会総会を平成14年5月18日(土)に池袋のホテルメトロポリタンにて開催いたします。

昨年度までは、大学において駿輝祭開催時に実施しておりましたが、交通の利便性が良い都内で開催してほしいとの要望もあり、池袋での開催となりました。(駿輝祭時にはホームカミングデーとして会員の皆様をご招待し、懇親会を行う予定です。)

総会では、平成13年度の決算報告、平成14年度予算及び事業計画等を審議します。初めての学外での開催ですので、多数の皆様のご出席をお待ちしております。



3Fフロア



JR線ご利用の場合は「メトロポリタン口」から徒歩1分
私鉄・地下鉄の場合は「西口公園出口(地下鉄有楽町線寄り)」をご利用ください。

開催日：平成14年5月18日(土)
場所：ホテルメトロポリタン 3階富士の間
東京都豊島区西池袋1丁目6番1号

TEL 03 3980 1111

時間：総会 12時～
懇親会 13時～

会費：1人3000円(総会のみ出席の方は無料です)

同窓会と大学一体となつての前進を

経済学部教授・学生部長

江川 雅司



しまして、一言お礼申し上げますとともに心より感謝申し上げます。

平素は、同窓会の皆様がたには多大なご支援、ご理解を賜りまして誠に有難うございます。この場をお借り

しまして、一言お礼申し上げますとともに心より感謝申し上げます。

早いもので、1987(昭和62)年に大学が開校して16年目を迎えるようしております。今後、大学が対処すべき最大の点は、更なる「質」の向上にあるかと思ひます。1991年に大学設置基準の大綱化が実施されたことは、バブル経済崩壊前という時代背景の下、教育・研究の中身は「量」を前提にして考えられたかと思ひます。しかし、経済の停滞並びに少子化による学生数の減少という現在、教職員と学生の「質」の向上へと考え方を変えなくては行けない時代になったと思ひます。時代の要請に因應するためには、教員の教育・研究の充実と職員の環境整備、学生生活の環境整備が急務となります。この目的をうまく遂行させるには、同窓会と大学とが一体となって連携し、さらなる前進をすることが重要であると考へます。つまり、大学での同窓会の役割分担がより一層求められると思ひます。

「量」から「質」への転換は、まず教職員の「質」の向上が重要であると思ひます。教職員の「質」の向上があれば、学生も啓蒙され、おのずと学生の「質」の向上へと繋がると考へられるからです。同時に、大学での学生生活の環境整備という課題がでてきます。学生生活に係っている学生部の課題として、厚生施設や奨学金などが挙げられます。本学では、スポーツ振興の一環としてのクラブ・ハウスの建設、2002年1月竣工、それに伴う学生食堂の拡充、通学のアクセス(金子駅での送迎開設)、スクールバスの充実、学生の健康相談を担うカウンセリング業務の充実、及び奨学金の充実等に努めてきました。今後、これらの点も含めて、より一層充実させるべく邁進してまいりたいと思ひます。

皆様様には、今後とも何とぞ宜しく「指導」ご協力の程お願い申し上げます。

編集後記

第1号がようやく完成したと思つたのもつかの間、すぐに第2号の発行となりました。来年度からは、4月と9月に発行することになります。スケジュール的にも余裕ができそうです。誌面も大学の現況だけではなく会員向けの情報を盛り込んでいきたいと思ひます。

5月に同窓会総会が開催されますが、今年度は初めて学外での開催となります。参加者が何名くらいになるのか、想像もつかないので会場が大きさが適当か、いまひとつ不安です。今総会では、昨年度の総会で決まった事業計画が予算として具体化されます。関心がある方は是非総会にご出席ください。

本学の同窓会は1期生が卒業して10年あまり経ちますが、仕事の面でも私生活でも一番忙しい年代かと思ひます。事務局では微力ながら同窓会の発展のためにお手伝いをさせていただきますと思ひます。同窓会に関するご要望等ありましたら、事務局までご連絡ください。

同窓会事務局からのお知らせ

同窓会事務局では、

1. 会員の住所管理
 2. 同窓会報の作成・発行
 3. 資金管理
 4. 総会・懇親会の運営
- 等の業務を行っています。これらの業務に関連して、次の方は事務局にご連絡ください。
1. 住所・氏名に変更があった方
 2. 同窓会報に寄稿したい方
 3. 支部会を組織したい方
- 特に2の同窓会報への寄稿につきましては、いつでも受け付けておりますので、よろしくお願ひします。連絡先は、

〒357 8555 埼玉県飯能市阿須 698
駿河台大学同窓会事務局
TEL 0429 72 1101
FAX 0429 72 1149
E-mail dousou@surugadai.ac.jp